

2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	加藤 靖啓 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空管制 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	26
教科書	AIM-JAPAN				
参考書	管制方式基準				

教 育 の 内 容				
授業概要	事業用操縦士に必要な通信の基礎、無線工学、航空援助施設、航空交通業務、管制方式基準及び、航空機の実運航についてのATC概要ををおおむね理解させる。			
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして航空管制の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に際して、管制機関との連絡方法を確実に理解させる			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空援助施設一般	6		
2	航空交通管制一般	6		
3	飛行場におけるATCプロシージャ	6		
4	緊急操作	4		
5	安全対策	4		

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	航空管制 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
航空援助施設一般	a 航空保安施設 b 通信組織とレーダー網 c 着陸用援助施設 d 航空障害灯・昼間障害標識 e 飛行場標識とマーキング	4月～5月	6	
航空交通管制一般	a 航空交通業務 b 空域 c 管制機関 d 管制方式通則 e 気象情報 f 通信要領 g 飛行方式	6月	6	
飛行場におけるATCプロシージャ	a 飛行場管制方式一般 b タクシー及び出発、到着機 c 可視信号 d 飛行場灯火の運用	7月	6	
緊急操作	a 捜索救難 b 遭難及び緊急時の手順 c 不時着水、ハイジャック d 通信機等機材故障の場合	11月～3月	4	
安全対策	a 安全対策 b ヒューマンファクター c 運航環境 d 安全支援装置	11月～3月	4	

2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科	担当	久保田 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空工学 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	87
教科書	航空工学入門 航空力学				
参考書	AIM-JAPAN Take-Off安全飛行への招待 事業用操縦士口述試験問題集 飛行機操縦教本				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空従事者として必要とされる知識を習得させ、実運航に活用できるように教育する			
実務経験	航空従事者実地試験教育の経験を活かし授業を行っている			
授業の進め方	教科書中心に参考資料を提示しながら理解しやすいように進めている			
到達目標	事業用操縦士として運航に必要な実用的な知識習得を目指す			
学業成績の 評価方法	前期得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空力学 (航空工学入門～P58まで)	30		
2	機体 (航空工学入門～P110まで)	24		
3	航空エンジン (航空工学入門～P150まで)	9		
4	装備品 (航空工学入門～P218まで)	9		
5	復習・研究 (実運航に必要な知識の確認)	15		

学科	操縦科	学年	1年
科目	航空工学	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
航空力学	a. 流体力学の基礎	4月～6月	30	
	b. 翼型理論			
	c. 飛行機の翼			
	d. 全機の空力特性			
	e. 性能			
	f. 安定性			
	g. 操縦性			
	h. 重量および重心位置			
	i. 航空機の振動現象			
機体	a. 航空機材料	6月～10月	24	
	b. 航空機構造の種類			
	c. 主翼構造			
	d. 胴体構造			
	e. 尾翼構造			
	f. 機体にかかる荷重			
	g. 油圧・空気圧系統			
	h. 着陸系統			
	i. 操縦系統			
	j. 空気調和・与圧系統			
	k. 防除氷系統			
	l. 補助動力装置 (APU)			
航空エンジン	a. エンジンの歴史	10月	9	
	b. サイクル			
	c. ピストン・エンジン			
	d. プロペラ			
	e. ガスタービン・エンジン			
装備品	a. 電気装備	11月	9	
	b. 電子装備			
	c. 航空計器			
	d. 自動飛行制御装置			
	e. 非常用装備			
復習・研究	a. 実運航に必要な知識 (PA28-161型機)	12月～1月	15	
	b. 装備品 (エンジン含む) の故障・対策・緊急操作			
	c. 航空機整備			
	d. 耐空性			
	e. 実地試験 (口述) 知識			

2025授業計画書 (シラバス)

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科	担当	渡邊康秀 (常勤)	開講時期	1年次通年
科目名	一般教養	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	58
教科書	史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集				
参考書					

教 育 の 内 容				
授業概要	就職試験において広く実施されている能力・適性検査対策として、数的分野、言語分野及び構造的把握力分野にわたるSPI各科目を演習し、各種問題に対処する手法を習得する。			
実務経験	—			
授業の進め方	教科書を参考とし、板書、スライドを使用して演習問題の反復演練とその解説による。			
到達目標	1. SPI解法に必要な数的処理能力を習得する。 2. SPI解法に必要な、語句や語彙力な知識を習得する。 3. 第1項・第2項の総合力として、入社試験合格レベルに到達する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	—	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	数的処理能力	40		
2	言語能力	15		
3	構造的把握力	3		

学科	操縦科	学年	1年
科目	一般教養	授業方法	講義

2/2ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
非言語能力	a 推論 b 順列・組合せ c 確率 d 損益算 e 仕事算 f 速度算 g 集合 h 表の解釈 l 特殊算 j 二語の関係 k 語句の意味 l 複数の意味 m 空欄補充 n 長文読解 o 英語同意語 p 英語反意語 q 英英辞典 r 英語空欄補充 s 英語長文読解 t 構造的把握力	4月～3月	58	

2025 授業計画書 (シラバス)

專門科目

一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校						
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	高尾 優美子 (非常勤)	開講時期	1年次 通年	
科目名	英会話 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	29	
教科書	英会話 初級・中級					
参考書						

教 育 の 内 容				
授業概要	日常的な話題について、聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したりして伝える。基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。			
実務経験	10年の実務経験を活かして英語の授業を行う。			
授業の進め方	授業では、板書、プレゼンテーション、ハンドアウト、ロールプレイを活用する。			
到達目標	1. 日常的な話題について、相手が伝えようとすることを理解する。 2. 日常的な話題について、自分が伝えたいことを英語で話す。 3. 英語を聞く、話すを通して英単語、英文法の知識を身につける。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	－	20%	100%

[illegible]

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	英会話 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
英会話のトピックス	a 物の数(可算名詞)・物の数(不可算名詞)	4月～3月	29	
	b 好きな物・好きでない物/欲しい物・欲しくない物			
	c 行動の理由			
	d a-cの復習			
	e 行動の頻度(1)/日常生活の行動			
	f 現在形と現在進行形/行動の頻度(2)			
	g 感情表現/現在形の疑問詞(誰が・どこで)			
	h 現在形の疑問詞(いつ・いくら)			
	i e-hの復習			
	j 人の能力・許可の取り方			
	k しなければならない事・する必要がある事			
	l j-kの復習			
	m 序数と単位/知覚、感覚を表す動詞			
	n be動詞の過去形			
	o be動詞過去形のWH疑問文			
	p 規則動詞の過去形/不規則動詞の過去形			
	q 一般的な過去形のWH疑問文			
	r m-qの復習			
	s 形容詞を使って物を描写			
	t するつもりだったが、しなかったこと			
	u 未来の活動や出来事			
	v s-uの復習			
	w 誰かに頼み事をする			
	x 申し出・提案			
	y 義務と禁止事項			
	z w-yの復習			
	aa shouldを使って人にアドバイスをする			
	ab 人や物の状態			
	ac 会話の中で、物事を明確にする			
	ad aa-acの復習			

2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/3ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	吉田 翔 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	操縦法	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	58
教科書	飛行機操縦教本				
参考書	飛行規程、チェックリスト 機材「実機：パイパーPA28、FTD：飛行訓練装置」				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空安全を基に、確実なチェックリストの使用法、操縦要領等、HAAでの訓練・確実なライセンス取得を目的とする。また、機長としての考え方を習得する。			
実務経験	実機及びFTDを使用し、確実なチェックリスト・操縦要領を理解して、初等訓練であるHAAでの自家用操縦士訓練を円滑に実施し、機長としての運航ができることを目的とする。			
授業の進め方	機長としての実運航要領を習得させる。			
到達目標	1. 実飛行訓練に反映できる。 (※期末得点は口述に変えることもある。)			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	20%	70%	10%	100%

授 業 計 画			
(1単位時間＝50分)			
No.	教 育 項 目	時 間	備 考
1	安全	2	
2	ヒューマン・ファクター (SHELモデル、SRM・CRM、航空医学)	2	
3	飛行の原理、計器	1	
4	操縦の理論	1	
5	飛行の準備	2	
6	地上操作	3	飛行前点検含む
7	離着陸と場周経路	2	
8	空中操作	3	
9	野外飛行	2	
10	緊急操作	3	
11	夜間飛行	1	
12	※FTD (飛行訓練装置) による各操作要領等、Procedureの確立	36	
		(58)	

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	操縦法	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
安全	・飛行機 ・マニュアルと訓練 ・運航環境	4月	2	
ヒューマンファクター	・航空医学	4月	2	
飛行の原理・計器	・操縦装置/動力装置の作用と操縦法 ・トリム装置／フラップ ・飛行の安定 ・各計器類	4月	1	
操縦の理論	・基本飛行	4月	1	
飛行の準備	・飛行に関する諸規則/航空情報/気象/空港/訓練空域 ・W&B ・制限荷重 ・飛行機の点検、検査 ・無線通信 ・飛行前の準備	5月	2	
地上操作	・飛行前点検 ・座席とシートベルト ・エンジン運転法 ・飛行機誘導法 ・地上滑走 ・離陸模擬 ・地上での緊急操作	6月	3	
離着陸と場周経路	・離陸 ・着陸 ・連続離着陸 ・着陸復行 ・場周経路/場周経路への進入、離脱法 ・制限地着陸のための各種進入	7月	2	

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	操縦法	授業方法	講義

3/3ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
空中操作	・慣熟と基本操作 ・応用空中操作 ・失速	9月	2	
野外飛行	・概要 ・飛行計画/飛行の実施 ・無線航法援助施設の利用 ・野外飛行における緊急対策	9月	2	
緊急操作	・エンジン/系統装置/操縦系統/プロペラ系統 各故障 ・無線通信機器故障 ・機位の喪失 ・不時着(着水含む) ・遭難緊急通信 ・緊急時のトランスポンダーの操作	10月	3	
夜間飛行	・夜間における基本的な操縦技術 ・夜間視力 ・夜間飛行の携行物件 ・機内の証明と装置 ・飛行場灯火の概要 ・夜間飛行における運航上の注意点 ・夜間n緊急操作	10月	1	
飛行訓練装置 FTD	・地上操作 ・基本操作(水平、旋回、上昇、降下) ・離着陸操作 ※各種操作手順要領	10月～3月	36	

2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/4ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	森 一郎 (古関 共浩) (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航法 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	58
教科書	AIM-Japan 自家用・事業用操縦士の航法				
参考書	航法計算盤、プロッター、区分航空図				

教 育 の 内 容				
授業概要	航法を自家用操縦士及び事業用操縦士として実飛行に反映できるようにし、また、学科試験及び実地試験に合格できる知識を習得する。			
実務経験	航空機事業の実務を活かして、自家用操縦士として安全・確実な飛行方法・要領を理解させる。			
授業の進め方	機長としての実運航要領を実施させる。			
到達目標	1. 実飛行訓練に反映できる 2. 自家用操縦士、事業用操縦士の学科試験及び実地試験の合格を目指す			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%

授 業 計 画			
(1単位時間=50分)			
No.	教 育 項 目	時 間	備 考
1	空中航法	1	
2	諸元解説	1	
3	航空図	2	
4	チャートプロットイング	1	
5	風力三角形	6	
6	航法計算盤	4	
7	磁気羅針儀	4	
8	高度計	4	
9	速度計	2	
10	無線航法	4	
11	飛行計画	6	
12	地文航法	6	
13	行動半径と等時点	4	
14	学科・実地試験対策	13	

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	航法 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
空中航法	a 空中航法 b 航法の分類	4月	1	
諸元解説	a 地球の形と大きさ b 地球に関する用語 c 方位と距離 d 時	4月	1	
航空図	a 地図の特徴 b 航空図の要件 c メルカトル航空図 d ランベルト航空図	5月	2	
プロット チャ ー ティ ン グ	a プロッター b ランベルト図のプロットイング c メルカトル図とランベルト図	5月	1	
風力三角形	a 飛行中の風の影響 b 飛行中の風力三角形 c 計画の風力三角形 d 飛行中の風力三角形の作図法 e 計画の風力三角形の作図法 f 作図板の概要 g 飛行中の風力三角形の作図板解法 h 計画の風力三角形の作図板解法	5月 ～6月	6	
航法計算盤	a 乗除算計算 b 航法諸元の算出 c 単位の換算 d 三角関数応用	6月 ～7月	4	
磁気羅針儀	a 地磁気 b 磁気羅針儀の構造 c 偏差と自差 d 時差の原因 e 動的誤差 f 定針儀 g ジャイロシンコンパス	7月 ～9月	4	

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	航法 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
高度計	a 高度の種類 b 標準大気 c 気圧高度計 d 高度計の規正 e 高度計の誤差 f 真高度の求め方 g 気圧高度の求め方 h 密度高度の求め方	9月 ～10月	4	
速度計	a 対気速度計 b 真対気速度の求め方 c 速度計の速度	10月	2	
無線航法	a NDB (ADF) b VOR c DME d TACANとVORTAC e 無線航法と位置の線 f タイムディスタンスチェック	10月 ～11月	4	
飛行計画	a 飛行計画の準備 b 飛行計画の作成(飛行ルートの策定))	11月 ～12月	6	
地文航法	a 地形地物と航空図 b 航空図判読 c 地文航法の準備 d 地文航法における機位決定法 e 地文航法の実施要領 f 偏位角に関する公式 g 地文航法実施上の留意事項 h 地文航法と最新の航法 I 管制圏等の回避 j 実施上の留意事項	12月 ～2月	6	
と行 等動 時半 点径	a 行動半径 b 等時点	2月	4	

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	航法 I	授業方法	講義

4/4ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
学科・実地 試験対策	a 機長の出発前の確認事項 b 有視界方式による航法ログの作成(飛行ルートの策定) c 事業用操縦士としての総合的な判断	2月～3月	13	

2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	加藤 靖啓 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空法規 I	授業 方法	(講義) 演習・実習	教育時間	26
教科書	航空法				
参考書	AIM-J				

教 育 の 内 容				
授業概要	操縦士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。			
実務経験	自家用操縦士の実務経験を活かして航空法の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に必要な法律を理解させる。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	総則	5		
2	登録	2		
3	航空機の安全性	2		
4	航空従事者	5		
5	航空機の運航	12		

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	航空法規 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
総則	a 国際民間航空条約 b 国際民間航空機関 c 航空法の目的 d 法、施行令、施行規則	4月～5月	5	
登録	a 登録の要件 b 航空機登録証明書 c 登録の種類 d 打刻、識別版	6月	2	
航空機の安全性	a 耐空証明 b 型式証明 c 修理改造検査 d 予備品証明	7月	2	
航空従事者	a 技能証明の限定 b 技能証明の要件 c 航空身体検査 d 航空英語能力証明	8月～10月	5	
航空機の運航	a 航空機に備え付ける書類 b 航行に必要な装備品 c 航空従事者に関する事項 d 見張りの義務 e 機長の義務 f 運航全般	11月～3月	12	

2025 授業計画書 (シラバス)

專門科目

一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	高尾 優美子 (非常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	英語 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	238
教科書	TOEIC L&R公式問題集 11 TOEIC Test 出る単(600)				
参考書					

教 育 の 内 容

授業概要	TOEICで500点以上を目指し、TOEIC頻出文法、単語、熟語の勉強			
実務経験	10年の実務経験を活かして英語の授業を行う。			
授業の進め方	授業では、板書、プレゼンテーション、ハンドアウトを活用する。			
到達目標	1. リスニングの向上のため「音」と「意味」の理解を深める。 2. TOEIC頻出の英文法の解説後、実践問題を通して学習した知識を定着させる。 3. TOEICによく出る英単語、熟語を例文及びミニテストを用い定着させる。			
学業成績の評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	60%	20%	20%	100%

授 業 計 画

(1単位時間=50分)

[illegible]

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	英語 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
リスニング・スピーキング	a ディクテーション 全体を聞く(内容を想像する) 1文ずつ再生して聞こえたものを書く 答え合わせと音の確認 全文の意味を考えながら声を出して読む	4月～3月	39	
英単語・熟語	a 毎回50単語及び20熟語の学習 b 前週分の単語テスト	4月～3月	39	
英文法	a 基本文型の理解 b 品詞 c 前置詞・接続詞・関係詞の基本 d 不定詞・動名詞・分詞の基本 e 時制と仮定法 f 名詞と代名詞	4月～3月	158	
模擬テスト	a 模擬テスト	11月	2	

2025授業計画書 (シラバス)

(専)日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科	担当	渡邊康秀 (常勤)	開講時期	1年次通年
科目名	一般教養	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	26
教科書	初めから始める数学 I 改訂3				
参考書					

教 育 の 内 容				
授業概要	事業用操縦士として必要な航空力学及び空中航法を理解・習得する上で、基盤となる基礎的な数学について習得し、更にこれらがどのように航空力学及び空中航法に応用されているかを理解する。			
実務経験	—			
授業の進め方	教科書を参考とし、板書、スライドを使用して演習問題の反復演練とその解説による。			
到達目標	1. 高校教科書数 I ～ II レベルの基礎的な数学について理解する。 2. 第1項の内容の理解を基盤とし、航空力学及び空中航法にどのように適用されるかを理解する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点		評価点
	80%	—	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	数と式	3		
2	1次関数(1次方程式)	4		
3	2次関数(2次方程式)	5		
4	3角関数	5		
5	データ分析	4		
6	微分・積分	5		

学科	操縦科	学年	1年
科目	基礎数学	授業方法	講義

2/2ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
基礎数学	a 数と式	4月～3月	26	
	b 1次関数(1次方程式)			
	c 2次関数(2次方程式)			
	d 3角関数			
	e データ分析			
	f 微分・積分			

2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1 / 2 ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 4年制コース	担当	古関共浩 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空安全 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	52
教科書	AIM-J				
参考書	パワポ(主にヒューマンエラーの起因による過去の航空事故の事例を取り上げる)				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空安全の授業では、授業を通して学生が「安全に対する意識」を高めるのが目的である。航空事故の原因は、大半がヒューマンエラーによるもので、どんなに航空機の技術が発達しても、人が航空機をオペレーションする以上、ヒューマンファクターを理解する必要がある。また時々、クラス内でグループディスカッションを随時行い、グループで共通認識を持つこと、相手目線で考える力、相手意見を尊重しながら自分の意見を述べる力を養うことを目指す。			
実務経験	エアラインでの勤務経験を活かして「航空安全」の授業を行う。			
授業の進め方	授業ではパワポの資料を用いて授業を進める。随時クラス内でグループディスカッションを行い、チームで問題解決に挑む大切さ、協調性、柔軟性、リーダーシップを養う意識づけのきっかけになるような授業を実施する。			
到達目標	随時授業を行う前に、これまで授業で学んだ内容を学生に確認し振り返りをさせ、質問を行い、回答させること。 1年間、何事にも学生自身が自ら調べ、自ら学び、周りの人とコミュニケーションを図りながら知識・知見を深めること、 見聞を広める努力するの重要さの意識を持たせること。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	CRM / TEMについて	5		
2	ヒューマンファクターについて	3		
3	エアラインオペレーションについて(2men operetion,権威勾配など)	8		
4	パイロットの技量(テクニカル・ノンテクニカルスキル)について	3		
5	過去の航空事故について	30		
6	グループディスカッション	3		

学科	操縦科 4年制コース	学年	1年
科目	航空安全 I	授業方法	講義

2/2ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
航空安全	a 安全とは・全ては安全のために	4月～3月	52	
	b 過去の航空事故について			
	c CRM・TEMについて			
	d エアラインパイロットにおける2men Operationについて			
	e SHELLモデルについて			
	f コックピットでの権威勾配について			
	g パイロットの技量について(テクニカル・ノンテクニカルスキル)			
	h 何故ヒューマンファクターを学ぶのか			
	i Competecyについて			

2025授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科2年制・4年制課程	担当	細川 隆司 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空気象 I	授業 方法	(講義) 演習・実習	教育時間	87
教科書	パイロットの専門教育のための航空気象 講義ノート 図解パイロットに必要な航空気象 気象予報のための天気図の見方				
参考書	AIM-J TAKE OFF				

教 育 の 内 容				
授業概要	気象の基礎、航空気象、各種天気図、各種気象通報式及び航空機の実運航についての関係気象をおおむね理解させる。			
実務経験	操縦士としての実務経験を活かす			
授業の進め方	板書、パワーポイント等を活用			
到達目標	1. 基礎航空気象の一般知識の理解 2. 自家用操縦士として必要とされる航空気象概要及び(*)IFR気象の理解 3. 気象情報、天気図等の収集、運航に必要な気象の把握、説明要領の理解 (*)IFR気象とは、IMCになる可能性の高い気象をいう。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	10%	10%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	地球の大気 (the earth's atmosphere)	3		
2	気温 (TEMPERATURE)	3		
3	大気圧と高度測定 (Atmospheric pressure and Altimetry)	3		
4	風 (Wind)	6		
5	大気中の水分 (moisture)、雲の生成、降水 (precipitation) 現象	3		
6	大気の安定・不安定 (stable air, unstable air)	6		
7	雲 (clouds)	6		
8	気団 (air mass) と前線 (front) と高・低気圧 (high・low)	6		
9	乱気流 (turbulence)	6		
10	着氷 (Icing)	6		
11	雷雨 (Thunderstorm)	6		
12	* IFR気象	5		
13	* 高高度気象	5		
14	航空気象サービス	6		
15	天気図	6		
16	* 数値予報天気図	5		
17	四季の天気図	6		

学科	操縦科2年制・4年制課程	学年	1年
科目	航空気象 I	授業方法	講義

2/2

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
気象の知識と予備知識	地球の大気 気温 気圧 風 大気中の水分、雲の生成、降水現象 大気の安定・不安定 雲 気団と前線と高・低気圧 乱気流 着氷 雷雨 IFR気象	4月～11月	59	
天気図	地上解析図(ASAS) 地上海上悪天予想天気図(FSAS24 FSAS48) 高層天気図(AUPQ78 AUPQ35) その他の天気図(AXFE FXJP FBJP) 気象衛星画像とレーダー解析図	11月～2月	22	
四季の天気図	冬の天気図 春の天気図 夏の天気図 秋の天気図			
空港の気象	飛行場実況気象 飛行場予報 飛行場警報 気象サービス	2月～3月	6	

2025 授業計画書 (シラバス)					
科目区分	専門科目・一般科目			1/2ページ	
(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース・4年制コース	担当	森 一郎 (広恒 一、広恒 優、 森内 崇史) (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	BMS	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	87
教科書	講師作成資料等				
参考書	月刊エアライン				

教 育 の 内 容				
授業概要	就職活動に必要な知識やマナー、就職企業研究や履歴書の書き方を学ぶ。			
実務経験	航空機事業の実務を活かして、ビジネスマナーと就職活動対策の経験を活かす。			
授業の進め方	講義・実技を中心。			
到達目標	就職活動に必要な知識やマナー、就職企業研究や履歴書の書き方の習得。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間＝50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	身だしなみと持ち物	6		
2	電話やメール、手紙	9		
3	敬語	6		
4	就職活動指導	45		
5	就職活動面接指導	21		

学科	操縦科 2年制コース・4年制コース	学年	1年
科目	BMS	授業方法	講義

2/2ページ

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
身だしなみ と持ち物	a 身だしなみのマナー b 就職活動の持ち物	4月 ～5月	6	
手紙、電話 やメール	a 電話のマナー b メールのマナー c 手紙のマナー	5月 ～6月	9	
敬語	a 言葉遣い b 敬語の種類	6月 ～7月	6	
就職 指導活動	a 就職企業研究 b エントリーシートの書き方	7月 ～12 月	45	
面接 指導活動	a 面接指導	12月 ～3月	21	